

助成対象事業成果概要報告書(概要版)

制度名	チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	映画・映像・舞台芸術等に対応したクラウド型情報保障サービスの提供
助成対象事業者名	特定非営利活動法人 メディア・アクセス・サポートセンター
助成金の額	4,159 千円

【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	視聴覚障害者に向け、音声透かしや音声解析技術等とスマートフォンアプリ等を使って、視覚障害者用音声ガイドや聴覚障害者用字幕、手話を提供するサービスを行う。
②	助成対象事業の目標	映画館、DVD・Blu-ray や舞台芸術で、スマートフォンアプリや字幕メガネを使って、インターネット上のサーバーからバリアフリーデータを提供することで、視聴覚障害者の芸術へのアクセス保障、視聴環境改善を行う。

【令和2年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	<p>バリアフリーデータアーカイブとその利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者用字幕配信（字幕メガネ、DVD 等） ・視覚障害者用音声ガイド配信（スマートフォン） ・字幕メガネ事業（映画館貸出・個人法人貸出・学校寄贈） ・バリアフリーデータ制作 ・舞台芸術向け字幕、音声ガイド配信システムの提供
④	助成対象事業の成果	スマートフォンアプリによる視覚障害者用音声ガイドは45作品、聴覚障害者用字幕は50作品。コロナ過により緊急事態宣言等で映画業界全体に影響があり、約10%程度目標に届かなかった。字幕メガネ貸出の映画館は51館、個人80名、法人は9箇所。ろう学校4校には各4台を寄贈した。DVD用字幕配信は330ディスク実施。バリアフリーデータ制作は3作品。舞台芸術向け字幕、音声ガイド配信システムを提供した。
⑤	補足説明事項	コロナ過、及び緊急事態宣言の中、映画館を中心とした本事業は困難となり目標には到達しなかった。しかし、家庭での視聴は大幅に増加しており、本事業の延長線上である、TV、ネット動画のバリアフリー化が課題として見えてきた。(映画館でバリアフリー化された作品が配信される時、字幕も音声ガイドも無い) 当法人が設立当初から最大の目標としているのは「バリアフリーデータのアーカイブとその利用」であり、今後、全てのメディアで利用できる仕組みの構築を行っていく。